

4 YEARS CHART

四年間の流れ



教育促進支援機構公式キャラクター
りてらちゃん

- 一 回生** 学科・コースの決定までに一年間の熟慮期間がある市大文学部では、一回生の間に様々な学問に触れ、自分の興味・関心を広げます。外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語・日本語（留学生のみ）の中からいずれか二言語を選択して履修します。
- 二 回生** 二回生からは学科・コース（領域）に分かれます。一回生よりも演習や講読、実験などの授業が増え、より専門的な授業が展開されます。自分の所属するコース（領域）の専門科目だけでなく、他の学科・コース（領域）の専門科目も履修することができます。
- 三 回生** 三回生では専門性の深みも増し、コースによっては頻繁に発表を行うこともあります。卒業論文作成のための準備の演習（ブレ卒論演習）が開講されるコース（領域）もあります。就職活動の一環として、夏休みに事前企業研修に参加する人もいます。
- 四 回生** 四回生では、提出が義務づけられている卒業論文の執筆に入ります。コースの担当の先生方からアドバイスを受けつつまとめあげます。また就職活動に関しては、セミナーや企業訪問に積極的に参加するようになります。

コースが決まるまで/
 六月 ↓ 第一回コースガイダンス（公式）
 先輩学生によるコースガイダンス（教育促進支援機構主催）
 九月 ↓ 第二回コースガイダンス（公式）
 十一月 ↓ 先輩学生によるコースガイダンス
 十二月 ↓ 学科・コース志望届提出
 一月 ↓ コース決定！

入学前から決めていた
コースに進みました！



哲学歴史学科 日本史コース
2回生 南方 徳土さん

コース選択の迷いはなかったのですが、本史を学びながらも、地方公務員になりたかったのですが、一回生で日本史を学んでいくうちに、将来も日本史とかかわっていたいと考えるようになり、学芸員にも興味を持ちました。実は今も悩んでいるのですが、来年からは公務員試験講座も受ける予定です。いずれは決めなければいけません、悩めるのも学生の特権だと思います。

父が日本史の教師をしていて、もともと日本史に興味を持っていたのですが、高校時代の日本史の先生の授業がすばらしくおもしろくて、さらに日本史が好きになりました。受験勉強のときも日本史だけは苦痛でなく、よく資料集を見ていました。大学では高校までの表面だけの学習でなく、一つ一つの出来事について深く学習したいと思い、日本史コースがあるこの学部を目指すようになりました。

入学後に気持ちの変化は？
 コース選択の迷いはなかったのですが、めざす職業で迷いました。もともとは日本史を学びながらも、地方公務員になりたかったのですが、一回生で日本史を学んでいくうちに、将来も日本史とかかわっていたいと考えるようになり、学芸員にも興味を持ちました。実は今も悩んでいるのですが、来年からは公務員試験講座も受ける予定です。いずれは決めなければいけません、悩めるのも学生の特権だと思います。

どうする？

コース選択

2回生以降で所属するコースを1年間かけてじっくり考えることができるのも市大文学部ならではの。ここでは異なるパターンのコース選択をした2回生3人の体験談をご紹介します！



当初の志望とは異なる
コースに進みました！



言語文化学科
ドイツ語圏言語文化領域
2回生 鈴木 志歩さん

コース決定までに一年間猶予があることで、新たに視野が広がりが自分とどんなことに興味があるのかを再確認することができました。また、想像していた学問とは違う可能性もあると思います。一年間色々な分野に触れ合えるので、自分が本当に進みたいコースに進めると思いました。

当初検討していたコースから他のコースに変更した理由は？
 もともとドイツ語圏の文化や歴史に興味はありましたが、一回生の前期で受講した「文学部基礎演習」でグリム童話を取り上げて以来、ドイツ語圏の文学に興味を持ちドイツ語圏言語文化領域へ進むことを視野に入れ始めました。また、領域の雰囲気も選択の大きな決め手になったと思います。コースガイダンスなどで先輩方のお話を聞き、とても雰囲気のよい領域だと感じたからです。

コースを考える期間が一年間あることのメリットは何だと思いますか？
 コース決定までに一年間猶予があることで、新たに視野が広がりが自分とどんなことに興味があるのかを再確認することができました。また、想像していた学問とは違う可能性もあると思います。一年間色々な分野に触れ合えるので、自分が本当に進みたいコースに進めると思いました。

1年間かけてじっくり
コースを考えました！



人間行動学科 地理学コース
2回生 坪本 実咲さん

自分の興味分野がどのコースなら勉強できるのか、実際のコースの雰囲気やコース決定前に知れることだと思います。また、一回生の間に概論や基礎論で各コースの授業の雰囲気を知ることができたのはよかったです。どこにしようか悩んだときも、「先輩学生によるコースガイダンス」(教育促進支援機構主催)で先輩方に相談できて非常に助かりました。

どういった経緯で現在のコースに？
 私はもともと特に入りたいコースがあつたわけではなく、十一月のぎりぎりまでずっとこのコースにしようか決めあぐねていました。そんなとき、地理学コースに在籍している先輩から授業内容やフィールドワークの話や機会があり、ここが一番自分の興味分野を勉強できるコースかもしれないと思い、地理学コースに決定しました。

コースを考える期間が一年間あることのメリットは何だと思いますか？
 自分の興味分野がどのコースなら勉強できるのか、実際のコースの雰囲気やコース決定前に知れることだと思います。また、一回生の間に概論や基礎論で各コースの授業の雰囲気を知ることができたのはよかったです。どこにしようか悩んだときも、「先輩学生によるコースガイダンス」(教育促進支援機構主催)で先輩方に相談できて非常に助かりました。

文 哲学 コース

Philosophy

哲学歴史学科



哲学コースとは？
その魅力って？

西洋圏ではどんな分野で博士号をとっても、その称号は「Ph.D.」となりますが、これは「哲学博士」(Philosophiae Doctor)の略です。かつてはあらゆる学問は、哲学に含まれる諸領域だったのであり、哲学から枝分かれして成立したのです。哲学を学ぶことは、人間の持つあらゆる知の根はどこにあり、どういう土台に生育しているかを探求することです。私たちは哲学を学ぶことで、物事を目先の関心や利害に囚われることなく、大局的に、根源的に見る習慣を養うことができるでしょう。



先生ご自身の専攻とそのやりがいとは？

私の専門は、哲学の中でも宗教学という分野です。宗教というものは、生活がうまくいっているときには、差し迫って必要なものではないかもしれませんが、しかし、人は誰もが自分の人生について考えなくてはならないような状況に出くわします。そういうときに、宗教について考えたことがある人とならない人間には、違いが出てくると思います。今すぐにおもしろいと思える人は少ないかもしれませんが、あらゆる人にかかわることをやっていると思うて研究に取り組んでいます。



教授
仲原 孝 ▶
【なかはら たかし】
先生

三回生
渡辺 萌未 ▶
【わたなべ めぐみ】
さん

プラトン 田中美知太郎訳
『ソクラテスの弁明』
中公クラシックス

お奨めです。薄っぺらいし、文体は平易で、誰でも簡単に読めますが、何度読み直しても新しい発見のある、古典中の古典です。

先生
おすすめの
本



おすすめの授業は…
倫理学概論Ⅰ・Ⅱ

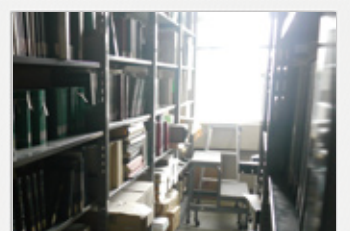
私は具体的な物事について考えることが好きなので、『倫理学概論Ⅰ・Ⅱ』がオススメです。この授業では、倫理学における主要な思想について説明を受けた後、身近な事例について倫理的に考察します。意見を交わしながら受講者皆で考えていく授業なので、楽しめる授業だと思います。

学びの中のエピソードを
教えてください

哲学で学んでいると様々な疑問にぶつかります。その中でも最近私は「哲学と現代人とのギャップ」について疑問に思っています。人間の生き方に多様性があるということが自明である現代社会において、個々の思想の集合体である哲学を学ぶ意味が、果たしてどれほどあるのかという疑問です。「哲学コースの人間がこんなことを考えるなんて、哲学に対する裏切りじゃないか？」と考える人もいるかもしれませんが、このような根本的な疑問について考える機会を与えてくれる学問こそが「哲学」だと、私は哲学コースに入ってから気づくことができました。

卒業論文タイトル紹介

- ・私たちはニーチェから何を学ぶのか
- ・国家はなぜ成立したのか—ホブズとロックの社会契約論に関する—
- ・イエスのメッセージと現代の我々の信仰の在り方



哲学コースにとっての

【旅】とは？

そもそも「旅」とは何なのだろう？。私は自宅から大学まで片道約二時間かけて通っている。毎日のように往復約四時間をバスと電車で移動に費やす。毎週木曜には、朝に市大へ行き午前中の授業をすませたら、約二時間かけて京都まで行って非常勤の授業をし、三時間弱かけて三田の自宅へ戻る。もちろんこれらは「通勤」なのだが、「旅」をしているとはいえないか？

年に数回、学会や会議や調査で、国内や海外の遠隔地に、数日から一週間くらい出かける。旅費も日当も支給される「仕事」だが、これは「旅」ではないのか？

バスケットボールではボールを持ったまま三歩歩くだけで「旅してる」(traveling)といわれる。麻雀等で陶酔状態になれば、一歩も動かなくても「旅」(trip)する」という。「いんなあととりつぷ」(心の中への旅?)を掲げる仏教系の新宗教もある。これらの「旅」に共通するものは何か？「旅」と「旅でないもの」は、何によって区別されるのか？

文：土屋先生



准教授
土屋 貴志 ▶
【つちや たかし】
先生



日本史コースとは？

その魅力って？

本学の日本史コースは、考古・古代・中世・近世・近現代それぞれに教員が配置され、全ての時代をカバーしています。これは全国的に見ても貴重で恵まれた環境です。また、コース全体で取り組むイベントが多いのも特徴です。世界史コースと合同のハイキングや合宿のほか、毎年九月には、日本史コース挙げての一大イベントである「地域の歴史的総合調査(合同調査)」を行っています。近世・近代が中心になりませんが、地域に分け入り、フィールドワークや実際の古文書を調査するという得がたい経験ができます。



日本史 コース

Japanese History

哲学歴史学科



講師
磐下 徹
【いわした とおる】
先生

先生ご自身の専攻と そのやりがいとは？

日本古代史(奈良時代・平安時代)について研究しています。テーマは大きく分けて二つ。一つは当時の地方役人である郡司を切り口に、古代の国家がどのように日本全国を統治していたのかを考えること。もう一つは、平安時代に貴族が書き残した日記、例えば、藤原道長の『御堂関白記』を扱って、当時の行政の仕組みなどを明らかにすることです。最近では、難波宮や行基など大阪の古代史についても新しく取り組んでいます。歴史に興味を持った最たるきっかけは子供の頃に読んだ伝記。昔の人間の話を多くの文献、資料をたどることで詳しく復元できることに魅力を感じました。

三回生
高濱 はるな
【たかはま はるな】
さん



先生 おすすめの 本

宮本常一
『忘れられた日本人』
岩波文庫
飯倉照平
『南方熊楠』
ミネルヴァ日本評伝選 ミネルヴァ書房
前者は、人びとのなかに刻み込まれた生活の歴史が明らかにされていく様子が印象的な本です。後者は、熊楠の生涯から学問にかける情熱を感じとることができる本で、「学ぶ」ということについて考えさせられる1冊です。

おすすめの授業は： 日本史演習Ⅰ

この授業は少人数制で、毎回一人が一つの古代の史料の読解と考察の発表を行うのですが、その発表に対して先生だけでなく、私たち学生も意見を言い合います。学生の指摘によって発表者の発表内容が大きく変わることもあり、とても良い刺激になっています。

学びの中でのエピソードを 教えてください

今までの授業の中で自分の史料の読み方が変わった授業があります。その授業では寺の修復を願ひ出る旨を書いたいくつかの書状を読み返しましたが、そのときはいくら読み返してもわからない点がありました。どうやら史料によって宛先が違っていたのです。そこで先生にお話を聞くと、大工には大工の独自の支配体制があるとのこと、つまり、寺を修理するには寺を支配している所だけでなく、修理にかかわる大工のお頭にも許可をもらわねばならないのです。史料を読む上で内容だけでなく、宛先など史料に関する全てを読み解く大切さを知り、またそうすることで当時の人々がどういう集団の中で暮らしていたのか、といったことがより鮮明に読み取ることができるようになりました。

卒業論文タイトル紹介

- ・廃藩置県前後における『新聞雑誌』と政治社会
- ・近世和気村の村落構造——座と村政の両面から
- ・古代における女帝と近親婚の關係

日本史コースにのっての 【旅】とは？

私の専攻する日本史学は、文献史料の読解が基本です。だからといって、研究室に閉じこもっているだけではよい研究はできません。関連する地域に足を運び、現地を見聞することも不可欠です。史料から得られた知見を現地に落とし込む、あるいは現地から得られた情報をもとに史料を読解するといった作業により、より深い研究ができます。

それぞれの地域の歴史や風土を知るうえで欠かせないのが、「その土地の名物(美味しいもの)を食べる」ということです。どうしてこれがその土地の名物となったのか、ということを考えることは、その地域の歴史や特徴を考えることにつながります。

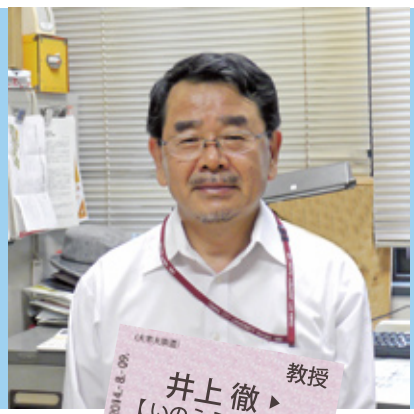
「旅」をするときには、ファストフード店で手軽に食事を済ませるのではなく、ちよっと奮発して、その土地の名物を食べてみてください。そして、今いる場所が、どのような歴史や特徴を持っているのかに思いを致すと、少し違った「旅」の醍醐味を味わえると思います。

文：磐下先生



世界史コース（東洋史）とは？
その魅力って？

世界史コースでは、歴史の細部の事柄に目を向けて、各種の論文や史料により関連の事柄を客観的に考察し、それを通じて世界の全体の歴史を見通す手法を重んじています。東洋史分野では、中国、南アジア、西アジアを中心として、各地域の歴史や社会の仕組み、言語を学びますが、多様な内容の授業を受講し、議論するなかで、アジアにおける歴史の細部と全体を繋ぎ、現代社会の分析に活かすことができるようになります。西洋史分野とともに、歴史的な視点から複雑に展開する世界の動向を分析できる頭脳に鍛えられるのが魅力です。関西にあるアジア関連の史跡を見学したり、海外に飛び出す機会もつくっています。



井上 徹 教授
【いのうえ とおる】
先生

先生ご自身の専攻とそのやりがいとは？

私の専門は中国史で、主に明・清時代の男系の血縁集団である宗族について研究しています。歴史の研究では、たくさん史料を読みますが、その際現地に赴き自分の目で直接その情景を見てみることで、研究テーマに対しより立体的なイメージを持つことができます。解釈の違いから論争が起こることも多いこの学問分野で、軸のぶれない研究を行うことは大切です。自分のこだわりの研究テーマを持ち、持続することに私はやりがいを感じます。

井上先生
おススメの本

ウィリアム・H・マクニール
『世界史』上下巻
中公文庫

人類の歴史のなかで起きた様々な出来事が1本の糸を軸にしてよりあわされ、世界の歴史の流れが容易に理解できるように叙述されています。頭のなかの混沌がすっきりと整頓される本ですね。



三回生
広谷 惇樹
【ひろたに じゅんき】
さん

おススメの授業は…

東洋史講読

この授業では中国近代史について学びます。その際に史料を精読し、その内容について議論をします。非常に少人数であり、また中国人留学生も履修するので、現在の状況も交えながら議論ができます。先生が実際に中国を訪れたときの話もしてくださるので、史料だけでなく情報も獲得できます。

学びの中でのエピソードを
教えてください

世界史を研究する過程で史料や先行研究を精読することで、知らず知らずに身につけてしまっていた世界の国々への誤解や偏見、固定観念を取り除くことができました。それは現代の世界の問題を正確に見られる思考能力につながるものでもあり、相手の立場になって物事を考えることにもつながっています。これは歴史を勉強するときだけに留まらず日常生活でも役に立ち、グローバル社会ではより求められる能力であると実感している。



卒業論文タイトル紹介
(東洋史)

- ・19世紀前半におけるインド教育論争とオリエンタリスト・アングリシスト——マコーリーとプリンセップの覚書から——
- ・ビルマ人中間層とビルマの独立

世界史コース
(東洋史) にとつての
【旅】とは？

私にとつての旅はほとんど中国への旅にイコールです。海外に初めて出たのは、一九八三年九月。南京大学への留学のためでした。最初の一年間は歴史系の学生と同室生活を送りましたが、生活習慣の違いから戸惑うことが多かったですね。その度に彼やその友人たちと議論したりするうちに、中国人の考え方や行動のあり方がだんだんにわかってきました。つまり、言葉や習慣の違いはあれ、同じ人間として同じ目線で交流することが何よりも大事だという教訓を得たのが最大の収穫でした。帰国後、私にとつては「異国」の地である津軽や現在の大阪での暮らしでもこの旅の教訓を活かしてなんとか日々を乗り切ってきました。それだけでなく、専門である中国の歴史を研究するに際しても、同じ目線で当時の人々の生活や社会の仕組みを理解することがずいぶん役に立ちました。旅の効用は時間や空間を超えて人間を理解する手助けとなるというところでしょうか。自由に旅を楽しみましょう。

文・井上先生

世界史コース

(西洋史) にとつての
【旅】とは？

私は西洋史専攻の歴史家ですから、旅はおもに史料や史料を見る旅になります。しかしそうであればこそ、史料や史料とは別の旅の魅力について語りたいたいと思います。まず旅先では生活臭のする裏道や路地を歩いてみることで、観光客が行かないような所を歩くことでその地の「今」を経験することが出来ます。数百年前の史跡が今の生活と共存しているのを見るとき私はいつも深い感動を覚えます。そして地元の人しか行かないところで食事をしてみる。これは言葉の通じないところでは勇気がいりますが、その地を肌で感じるよい方法です。また俗悪な場所を訪れてみる。その地のいわば「恥部」ともいえるそうした場所は、きれいに化粧した表の顔と合わせてその地を深く理解させてくれます。クラクフのユダヤ人街、ニュルンベルクの市壁裏、イスタンブールの城壁がそうした場所でしたが、今でも強烈な印象が残っています。ただこうも強烈な印象が残っています。今春訪れたイスタンブールでは、足を踏み入れたところが薬物中毒者やアルコールのたまり場で背筋が凍る思いをしました。十分ご注意ください。旅のスタイルはそれぞれ経験の積み重ねで作り上げていくものです。皆さんも自身で個性的な旅を作り上げてください。 Buon viaggio!

文・大黒先生

卒業論文タイトル紹介
(西洋史)

- ・16-17世紀ドイツ・ザール地方の魔女裁判——委員会とは何者か——
- ・剣闘士競技衰退論——ローマ帝政後期におけるキリスト教的因果の再考察を通じて——

世界史コース（西洋史）とは？
その魅力って？

「世界史コース」はその名のとおりの世界の歴史を研究するところです。といっても高校世界史のように世界史をまんべんなく学ぶわけではありません。地域と時代を限って特定の問題について深く探究するところです。その対象は日本以外の「世界」、現代ではない「歴史」、つまり「いま」と「ここ」から遠い世界です。「いま」と「ここ」から遠い世界が放つ魅力、安易な理解を許さない異文化の不思議さ、そうした世界に旅してみたい人向けのコースです。遠い世界に没入していると時折「現代」が姿を現し、過去の対話が生まれます。その対話は私たちの「現代」をも異質化してくれるでしょう。

大黒先生
おススメの本

林達夫・久野収
『思想のドラマトウルギー』
平凡社ライブラリー

2人の代表的な知識人が文化と学問について語り合った書物。深い学識と軽やかな知性が結びつき、話題から話題にとぶときの意外さ、しなやかに驚かされる。読むたびに自分の知的胃袋の小ささを痛感させられる一冊。本物の知性とはこういうものだ。



教授
大黒俊二
【おおぐろしゅんじ】
先生

先生ご自身の専攻と
そのやりがいとは？

私は「言葉と中世社会」に興味があり、具体的には中世の僧侶が説教するときの注意点について考えています。キツカケはある史料の引用を見つけたことです。「この点は危険ゆえに民には説教すべからず」という一文に驚き原典に当たると、似た文言が幾つもありました。このことから当時での教会から一般人への宗教的戦略や強力な思想統制の在り方がわかります。やりがいは深く知ることです。「何かありそう」な所が一番おもしろいのです。ですから学生には出会いを大切に、出会いに関する感性を育てる努力をしてほしいと思います。

文
世界史 コース
World History
哲学歴史学科

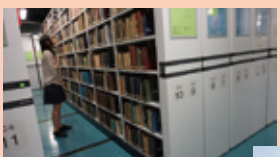
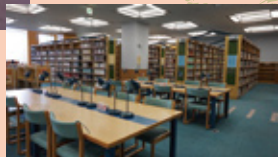


☆ 学術情報総合センター



← 学習スペース
「ラーニングコモンズ」
プレゼンの練習や会議に

図書閲覧室には
自習スペースも充実。



← 地下の集密書架には
貴重な文献がたくさん！

屋上庭園の愛称は
「アステリア」の
住吉区内で一番
空に近い場所！



☆ 今日の持ち物はコレ！



文学部生
りてらちゃんの1日

授業、お昼ご飯、アルバイト……中大の文学部生は実際にどんな毎日を送っているのでしょうか？
市大文学部生りてら先輩のある1日を、学生アンケートの結果とともに見てみましょう☆

8:00
起床

電車に乗り遅れそう！
急いで準備！

9:00 ~

1限目

全学共通科目の授業！

10:40 ~

朝は眠い……

2限目

文学部の専門の授業だ！

12:10 ~

お昼休み

友だちと

食堂でご飯♪

13:00 ~

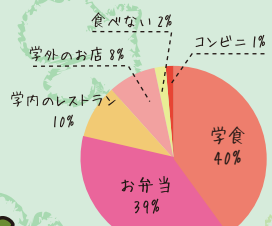
3限目

空きコマだ！

学情センターへ。

☆ 学生食堂

Q. お昼ご飯はどこで食べる？



安く美味しい学生食堂♪ →

☆ 記載しているアンケート結果はすべて2014年度入学者を対象としたものです☆

りてらちゃんの
1日の続きは
19ページへ☆